

剣道は私の「つばさ」

長崎県

養心会剣道部

中学2年 松岡 つばさ

私が初めて剣道に触れたのは、小学五年生の時でした。私はボールを真っすぐ投げることができないくらい運動全般が苦手で、体育の授業が大嫌いでした。しかし、三歳離れた弟が剣道を始めたのをきっかけに剣道に興味を持つようになりました。体験で素振りや足さばきをしたときに、皆さんから筋がいいとほめていただき、嬉しいという感情とともにびっくりもしました。竹刀を握り道場で稽古する日々は幼い私にとって新鮮で、運動が全くできなかった私が初めて体を動かすことが楽しめていた瞬間でした。

中学校に進学した私は一度事情があってやめていた剣道に再び挑戦することにしました。剣道部に入部し、数少ない部員と一緒に稽古していきました。中学二年生になった時、新しく別の道場に通い始めました。そこでは、強くて優しい素敵な先生方や仲間たちと出会い、共に汗を流しながら剣道の奥深さを学ぶ日々が始まりました。特に、剣道は「勝つため」だけのものではなく、“自分の弱さに打ち勝つための修行”かつ、“剣の理法の修練による人間形成の道”であると教えて頂いたことは自分の心に響きました。

私には、トゥレット症候群（チック症）という現時点で治療法のない持病があります。この病気は日常生活にも支障をきたすことが多く、とても疲れます。また私は引っ込み思案で人前で話すことさえ恥ずかしがっていました。剣道は技術だけでなく声も大事です。技術を習得することは時間がかかりますが、声は出そうと思えば出すことができます。小さい声では相手を威嚇することはできません。恥ずかしがり屋だった自分の殻を破ることができました。そのおかげで、生徒会役員としてリーダーシップを発揮したり、学校外活動に積極的に参加したりする自分に変わっていきました。

剣道で学んだ「逃げずに立ち向かう勇気」は、私にとって大切な支えとなっています。将来医者になってトゥレット症候群の原因を解明して人の役に立てるように、どんなに苦しい状況でも前に進むことを諦めない自分でありたいです。そして、剣道の稽古を通じて深く心に刻まれた「交剣知愛」の精神。試合では相手と真剣勝負を繰り広げますが、その裏には相手に対する深い尊敬と感謝が存在します。剣を交えてくれる相手がいて互いに全力で戦うからこそ、共に成長できる。相手を打ち負かすためではなく、相手と切磋琢磨することで自らを高めていく。この精神は、私にとって剣道だけでなく、日常生活の中で大きな影響を与えています。

剣道を通して学んだ「逃げない」「勇気をもって進む」ということは、私が将来目指す夢、つまりトゥレット症候群の原因を解明するという目標にも直結しています。研究や治療法の発見の道のりは困難かもしれませんが剣道で培った精神力と忍耐力を糧に、一歩ずつ前

進し続けたいです。困難に立ち向かいながらも、私自身の成長のため、夢を叶えるための力としてこれからも剣道を大切にしていきたいと強く思っています。